

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227  
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781  
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成18年9月(2006年) No.489

### 第46回OMC映像フェスティバル

## ワイドとハイビジョンが過半数を占める 10月1日発表会へ向けプログラム決まる

10月1日(日曜日)午後1時より中央会館で行われる、第46回OMC映像フェスティバル作品選考会が、去る8月5日(土)難波市民学習センターにて行われ、次の通り決まりました。

前半の部：①赤い列車の山登り、15分、山口幸代 ②やっさいほっさい、6分、森保信 ③起し太鼓、10分、吉岡貞夫 ④愛は国境を越えて、13分、西村光雄 ⑤京都歳時記・冬、10分、紙本勝 ⑥シャングリラ、8分、山本正夢 ⑦平城宮跡は今、10分、有村弘 ⑧士林景勝、9分、合原一夫(休憩)

後半の部：⑨夜さ来い(W)、7分、江村一郎 ⑩熊野三山(W)7分、渡辺雄史 ⑪北国脇往還(W)、9分、森口吉正 ⑫飛翔(W)、8分、進藤信男 ⑬黒石寺蘇民祭(W)、10分、河合源七郎 ⑭人が仏になる日(HDV)、13分、前田茂夫 ⑮鳴門のうず潮(HDV)、7分、奥宏 ⑯挑戦(HDV)、8分、安居利次 ⑰屋根の上の鉄橋(HDV)、9分、関剛 以上。

今年の特徴は、通常の4対3作品が過半数を割り、休憩前の前半にまとめられ、後半にワイドとハイビジョンの作品が配置されたことです。例会と同じような順序ですが、上映技術、上映効果の上で、作品内容で順序を決めていた従来方法は通用しなくなったわけで、時代の流れを感じます。

ノミネートされた方は25名に及びましたが、今年は平均上映時間が長く17本しか選べず、心ならずも数名の方には涙をのんで頂きました。

### 9月例会のお知らせ

9月第4土曜日は秋分の日で、会場は夜間の貸出しはありませんので、止むを得ず1週間ずらして第5土曜日、30日に開催いたします。OMCフェスティバル前夜で、何かとあわただしいと思いますが、いつものように例会を楽しくやりましょう。

■出品者の方は出品費納入をお願いします。

映像フェスティバル出品者は、7,000円を会計に納めてください。

## ■予告：12月例会は第3土曜16日に

12月第4土曜日は、9月例会同様、祭日になりますので、止むを得ず第3土曜16日になります。同日は午後には幹事会と世話役会も開催されます。手帳などにメモしておいてください。

## ■新年会は1月21日（日曜日）に予定

恒例の新年会（兼総会）は、1月21日（日曜日）の夕方より、例会を午後1時より予定しています。もっとも会場申込日は10月1日で、希望通りの日が会場確保できるか未知数の点もありますが、一応、そのつもりで日程を空けておられますようお願いいたします。

## 大阪アマチュア映像祭は

11月12日

大阪市中央図書館との共催による大阪アマチュア映像祭は、11月12日午後1時（開場12時30分）より中央図書館5階講堂で行われます。参加10クラブで今年は10回目の節目に当り、ハイビジョン作品も3本登場いたします。OMCからは「冬・余部」6分、江村一郎、「ウエサカ祭」9分、宮崎紀代子、「天井川の春」9分、玉井句「冬・旭山動物園」9分、合原一夫、以上4作品が上映されます。

なお、アマチュア映像祭出品者は、出品料として7,000円を合原会長へ納めて下さい（9月例会日をお願いします）。

## ■OMC映像フェスティバル 作品選考 寸評

会長 合原一夫

今年のフェスティバル作品は、昨年8月から今年7月までの例会作品177本に撮影会作品15本の計192本の中から選考されました。DVDによる全作品を拝見し評価の上、幹事会に諮ってプログラム編成を行いました。今年の上位得点作品の平均上映時間が例年より長く、出品数が17本に絞らざるを得ず、何人かの方が選に漏れてしまい残念でした。来年こそは1年に1作でもよいから、これぞわが自信作と云える内容の作品に取り組んで頂きたいと思えます。選考は4対3とかWとかHDVとかの区別なく、作品内容を重視して行いましたが、結果的に4対3作品が半数以下と

なりました。

今年は、かなり粒のそろった良い作品が集まったと感じております。この内容だと全国コンテスト入賞作品発表会に比べても決してヒケをとらないのではないかと自負しております。

トップバッターの鹿児島会の会員で山口幸代さんの「赤い列車の山登り」は、地元九州ならではのテーマで、何回も現地へ通って撮影された努力作であり、力作です。フェスティバル初登場の新人で、今後が楽しみな方です。

その他、山本さんの「シャングリラ」は一般の観光客はととも近づけない辺境の地での撮影であり、貴重なる記録にもなっています。

西村さんの「愛は国境を越えて」も、海外旅行に関する作品としては異色の作品で作者しか出来ない映像となっており、観客の皆様にも共感をもって観て頂けることでしょう。

紙本さんの「京都歳時記・冬」は、プログラム校正ミスで「秋」となっており、季節が違いますので作品紹介の司会でお断りする予定です。内容はどの季節編であっても立派な内容であると思っています。

よさこい祭を撮ったら江村さんに勝る人なし、と云ってもよいほど、迫力ある映像の「夜さ来い」江村作品、今年も健在です。

「平城京跡は今」有村作品は、例会では未発表でしたが、内容が貴重な記録であり作者の希望も取り入れて候補だった「冬の裏磐梯」と差し替えたものです。OMCは以前から未発表のものでも最も自信のある作品を出品する、という伝統があり、この点会員諸氏のご了承を得たいと思えます。

餘部鉄橋に関する作品は、撮影会作品以外にも力作が多くありましたが、関さんの「屋根の上の鉄橋」が選ばれました。最優秀作品だった前田作品は、作者が「人が仏になる日」を推されましたので、次点の関作品になりましたが、余部鉄橋は集落の真上を跨ぐ珍しい鉄橋の姿を、また集落の屋根との対比と、住民の姿を絡めて描いており、トリに相応しく観客の印象に残ることでしょう。その他江村さんの「冬・余部」も立派な作品で大阪アマ連の映像祭に出品

されます。

第38回の「春を呼ぶ炎の舞」から8年ぶりに選に入った森さんの「やっさいほっさい」は、勇壮な祭り行事の記録でトップの山口作品が静かな記録ものの後の動感あふれる内容なのでプログラム編成のメリハリをつける意味でもよかったと思います。

3番目の吉岡作品「起し太鼓」は、同じ祭りでも、雨の夜、厳粛な雰囲気逆光の美しい映像で惹きつけられるものがありました。

渡辺さんは2年ぶり、「熊野三山」は、よく現地を訪ね、資料を調べてまとめられた努力作ということで評価されました。

「北国脇往還」森口さんの作品は、どの作品を選んでも一応の水準以上のものがありました。中でも一番観客に関心を持ってもらえるのではないかと選定されました。

進藤さんのは他にも候補作がありましたが、話題性、ニュース価値から「飛翔」が取り上げられました。

河合作品「黒石寺蘇民祭」は、厳冬の北国で珍しい祭を撮影された熱意が伝わってくるようで、他にも候補作がありましたが、この作品が選定されました。

前田さんの「人が仏になる日」は、一般の人ではなかなか撮影できない舞台裏の表情をよく撮られており、OMC伝統の記録ものの主流派として評価されます。

奥作品「鳴門のうず潮」は美しいハイビジョン映像で、うず潮を多角的に撮られており、今回選考の対象となりました。

安居さんの「挑戦」は、ハイビジョンという話題のテーマに、アマチュアとして、如何に取り組んでいるかを一般の人に知ってもらおう意味でも関心のある作品だと思います。きっと観客にも受ける筈です。終りに私の「土林景勝」は、私にとっては気軽にまとめた海外もので、あまり立派な作品ではありませんが、来年はもっとマシなものを作りたいと思っています。

以上、多少順不同に寸評を述べましたが、今年の映像フェスティバルの日に雨になりませんように、特に台風とかち合いませんように祈る共に、会場一杯の盛会になりますように願っています。会員諸氏の観客動員の方をよろしく願いいたします。

## 8月例会レポート

今年の夏は特に暑さが厳しいようで、例会日も30度を越す熱帯夜でした。そのせいか、いつもより会員さんの出足が悪く作品数も1桁の9本というのは、今期最低の本数でした。そのため司会もゆっくり会員さんの声や意見も聞いたり、また久しぶりに落ちついた進行で、たまにはこういうゆったりした例会もいゝもんだと思いました。今月の司会は安居さん、書記、合原さん、デッキ係は増田、江村、河合のご3人、受付は森口さんと奥さんで会を進行しました。

■出席者：有村、江村、奥、河合、紙本、黒田、合原、西井、進藤、関、玉井、藤原、華岡、増池、前田、松本、森田、森口、森、森下、山本、安居、吉岡、渡辺の24氏。

■上映作品(今月の講評は合原会長です)

### 1. 草原の民

山本正夢さん

9分30秒

今月の4対3作品は、この山本さんの作品1本のみでした。さすがさすが山本作品は他を寄せ付けない異国情緒あふれる内容でいつも楽しみに拝見しています。

今度はモンゴルを旅されて、草原を駆ける馬上の男たち、そして作者も馬に乗って撮影するシーン、逆光を活かした美しいカットが続きます。パオの中では食事の用意をする女など、生活状況が描かれています。

遊び盛りの子供たちがボール遊びやトランプに興じている様子が印象的でした。

### 2. 倶利伽羅峠への道(W)

紙本 勝さん

9分40秒

難しい題名ですが「クリカラトウゲ」と呼ぶそうです。5月中旬、木曾方面へ旅して来られ、いにしえの古戦場の跡や源平合戦の頃の武人たちの像や碑など、紙本さんらしく、くわしく資料を調べてまとめておられます。効果音を活用して戦いの雰囲気を音で表現されようとしたねらいは良かったと思います。

それにしても全国のあまり知られていない祭や、歴史のある場所をうまく探し出して撮影に出かけられるご努力には敬服です。「歴史にふれる一寸いい旅になりました」の言葉で最後をしめくられました。

### 3. 灼熱の沙の城 (W)

河合源七郎さん 9分54秒

中国語の「沙」は日本語で「砂」と呼ぶなど、作者はいろいろ調べて「砂」ではなく「沙」を題名にされたようです。云われてみれば成程「砂」では、作者が表現したかった気持ちがぴたりこないかも知れません。この作品は中国シルクロードで昔、仏教文化が栄えていたのを八世紀イスラムがやってきて破壊してしまったという遺跡を中心に構成されたものです。高昌故城、トルファン、火焰山などが出てきます。手持ち撮影ながら落ちついて撮られています。また、ツアー作品にしてはよく調べてまとめておられました。場所が判らないので地図が欲しいという司会からの意見がありました。イントロあたりに出してみたら如何でしょうか。

### 4. 天神祭のひとこま (W)

増池 茂さん 8分50秒

7月24、25の両日に亘っての撮影だそうで、近くのビルの屋上からの俯瞰撮影は、誰でも撮れない作者だけの撮影ポイントのように思いました。竜踊りも舞台のすぐ横からや下からやら近接撮影は、良いポジションを得られたのが良かったです。

催し太鼓のシーンは特に迫力があり惹きつけるものがありました。苦勞して、場所を確保されています。総じてダイナミックで祭の作品としては良くまとまっていますが、会場から俯瞰撮影のカットと竜踊りの部分をもっと縮めたら更によくなるでしょう、という声がありました。良いカットほど長過ぎると逆効果になることも編集のときに頭の隅に置いておいて下さい。

### 5. 箕面の滝に涼を求めて (HDV)

奥 宏さん 6分06秒

三脚をがっちり構えてシャープな画像はさすがハイビジョンです。サギが魚を捕るシーンは、うまくシャッターチャンスを得られたもので印象に残るカットでした。夏の涼を求めて滝を眺める人、溪谷で遊ぶ人などをバックに滝音の現場音を聞かせたのは効果音として良かったと思います。夏のスケッチ作品としてよく出来ていました。

### 6. 踊っこまつり (HDV)

江村一郎さん 6分00秒

題名の頭に小さく KAKOGAWA とありましたので、加古川市でも例の高知のよさこい祭を採り入れたようです。よさこい祭となるともう江村さんの独壇場。この加古川の「踊っこまつり」もほとんど、よさこい祭の延長のようなもので、さすが迫力満点の映像に仕上がっていました。トップの白い透明感のあるカットがとても印象的で良かったのですが、次のカットがオールピントぴったしの写実的なロングでしたので少し現実に戻ってしまい、画面構成上課題があるように思いました。

### 7. 早春の頃

有村 博様 4分32秒

ハイビジョンカメラを買ったので、何か撮らなければと撮ったのがコレ、とまずは作者の弁。長居公園でのテスト撮影だそうです。トップの池面に映える森の映像は素晴らしいカットでした。ですが、その後は、花、はな、ハナの連続で、たっぷり美しい花を堪能させて頂きました。

テスト撮影によるとハイビジョンで難しいのはピントがどこに合っているかが判りにくいこと、コントラストはどうか等、いろいろDVにはない注意点があるようです。

### 8. 漁港と餘部橋梁 (HDV)

森田光春さん 8分51秒

撮影会作品公開コンテストの際、持って来られなかったのでひと月遅れの公開となりました。ハードディスクが壊れたのでチェンジして作り直された由。漁港の風景、餘部鉄橋、事故の時の新聞記事、イメージ映像のバックに語りべの声がかぶさります。よくまとめられています。漁港と鉄橋のつなぎ方にひと工夫ほしかったと思います。

### 9. あまるべライトアップ (HDV)

前田茂夫さん 3分00秒

ライトアップされた餘部鉄橋を AIJ (HC1 の姉妹機) カメラで撮影されたもので、いろいろと新発見されたようで会員諸氏にも大いに参考になったと思います。小型で夜でも撮れる HDV カメラ出現が待たれます。

以上で上映を終り、いつものように喫茶組と居酒屋組に別れ二次会を楽しみました。